

幸手・ブランド米

日本一美味な米として幕府に上納され「最高級米」として評価されたり、江戸の食通から「殿様米」とも呼ばれたり、明治に入ってから宮内省くわいしやう（現在の宮内庁）指定の御納米ごのうまいとして扱われた米、それが幸手産の白目米しろめまいです。今でも、幸手のお米は、年により皇室献上されています。白目米は、栽培が難しく、背丈が高く倒れやすい、収穫量が多くないなどの特性により昭和初期には生産量が減少し、さらに戦時中の法律により栽培を禁止され、以後半世紀以上にわたって一般に流通することの無い「幻の米」となっていました。ところが、白目米の栽培は幸手市の町おこしの一環として、私の両親がメインにその活動をし一九九六年に復活し再開されました。

当時、私自身はまだ流通業界で仕事をしていました。私自身が次男でもあり、農業の跡継ぎは長男という固定観念がありました。

幸手市を離れて会社員をしていて、転勤も数回し、その頃には、両親が働いている姿を少し見かけては、家の農業はこの後どうなるのだろうかと気にしていました。ちょうどそのころ子どもの就学のことも重なり、十二年近く勤務した会社を退職し、思い切って実家にもどり、農家への転職を決意しました。

私は大学では経済学を専攻していたので、農業をはじめたものの、最初から、農業の知識や経験は全くないというハンディーキヤップがありました。最初の三年は毎年、自分の背を超える本を乱読していました。農業を始めて三年目には、ドイツとフランスの海外視察研修にも参加していました。世界でトップクラスの農業大国ですから、良い刺激を受け始めました。また、その頃から、田植えをしない、乾田直播かんでんちよくばという最先端の稲作を農水省の指導のもと始めました。

自分自身、型破りな性格でしたが、型を破る前に、型が無かったから、基本を中心にしっかりと学びました。土作りもそうですが、一朝一夕ではできません。夢を見続ける事も大事ですが、今日一日を精一杯に頑張る事を続けていく事だけが、



学習した日

月 日



未来の自分を作っていきます。

流通業界での経験から、農産物も販売が大切な事を最初から考えていました。販売士という資格を取得していたので、経営面では普通の農業者よりも、広い視野で考えられる立場にいました。お米アドバイザー、ごはんソムリエ、食品衛生責任者などの資格を取得しました。ハンディーキャップが、バイタリティーの源になりました。そして、今は両親と私がメインではありますが、幸手市で最初の、農業での株式会社を設立いたしました。

まずは、埼玉県でトップになろうと思いい、埼玉県のコンクールに参加しました。そこで、三年連続入賞という快挙を得て、ますます仕事が面白くなってきました。同時に、日本各地の大きな全国大会に出場しました。全く振るわない時期がありましたが、それでもめげずに挑戦し続けました。その頃から全国各地を勉強しに駆け回り始め、沢山の先輩の農業経営者の知り合いを作りました。

米作りが少し分かってきた矢先の出来事です。二〇一〇年は、五十年に一度という猛暑の年でした。稲はあまりの暑さに、透明であるはずのお米が真っ白くなり、割れやすい状態の品質低下になり、販売価格の低下から、経営にも影響が出ました。両親も初めての経験というほどの痛手を受けました。つらい経験でした。そして、暑さに強い品種を必死で探し、全国各地の品種を栽培し始めました。美味しくて品質の良い品種ながら、まだ埼玉県では誰も作っていない品種などにもチャレンジしました。しかし、翌二〇一一年三月には、東日本大震災が起こり、計画停電があったり、放射能の問題があったりしました。一部のお客様は購入しなくなってしまう、*風評被害も受けました。まさに、*「泣きっ面に蜂」状態でした。(やっぱり、自分に農家はむりなのだろうか。)と真剣に考えるようになりました。

ところが、その頃から、栽培を始めた品種が、次々にコンクールで入賞し始めました。またもや、思いもよらない幸運に恵まれました。最高で全国二位になりました。稲が頑張ってくれています。日本一になるのは、もう少しの知識と努力と、幸運が必要です。運も実力のうちですが、偶然の成功は望んではいけない事です。一生懸命やって駄目でも、知恵と経験は身につくもので、働く上でこれは最も大事な事です。



そんな矢先、二〇一五年、『関東東北豪雨』の被害にあいました。一難去ってまた一難です。稲刈りの収穫の時期、それまで降り続いた雨と、止まない豪雨で、水田はかなり浸水し、収穫できないかもと不安になりました。全国各地の知り合いから、心配と励ましの連絡をいただきました。どうにか、大きな被害はなく、収穫できたときには、本当にほっとしました。

自然を愛し、自然に翻弄^{ほんろう}され、それでも自然の恩恵の中、生き抜く力が大事です。日の出とともに起床し、日の暮れるまでには仕事を終わりにするように心がけているのは、全て稲を中心に考える事が大事だし、外での仕事を中心だからです。農業の中でも、稲作は機械化が最も進んでいます。ハイテクのITを駆使したり、インターネットを利用して、天気の情報や常にとらえての作業を計画したりしています。週間の天候を考慮し、作業の優先順位を常に組み立てておしていく事が、大規模を管理していく秘訣^{ひけつ}です。

どんな仕事も、実はやればやるほど、働けば働くほど面白くなる魅力のあるものです。知れば知るほど難しさを知り、それでこそ乗り越えられるだけの価値があります。それが、仕事です。

これからも、地域の担い手として少しでも、世の中のお役に立ち続けていきたいと思っっています。それを、絶やすことなく、誰かしらが受け継いでくれたらよいなど、こっさり思っっています。

*一朝一夕…わずかの月日のこと。

*風評被害…根拠のないうわさのために受ける被害のこと。

*泣きつ面に蜂…悪いことのおかげにまた悪いことが重なること。

●働くということや地域や社会のために貢献していきたいことを書いてみよう。